



## 2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月9日

上場会社名 株式会社 秀英予備校  
コード番号 4678 URL <https://www.shuei-yobiko.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 武  
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 渡辺 喜代子

TEL 054-252-1792

四半期報告書提出予定日 2022年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	4,896	1.0	230		230		290	
2022年3月期第2四半期	4,945	2.4	281		284		559	

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 290百万円 ( %) 2022年3月期第2四半期 564百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	43.27	
2022年3月期第2四半期	83.39	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	10,129	4,287	42.3	639.00
2022年3月期	10,700	4,618	43.2	688.30

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 4,287百万円 2022年3月期 4,618百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		6.00	6.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,900	0.1	350	20.3	355	18.6	145	247.0	21.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	6,710,000 株	2022年3月期	6,710,000 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	319 株	2022年3月期	319 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	6,709,681 株	2022年3月期2Q	6,709,681 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの変異、感染拡大に対するワクチン接種の普及に伴い、感染者数・死者数が減少傾向となっており、ようやくコロナ禍の収束が視野に入ってくるようになっております。一方、ロシアのウクライナ侵攻は継続しており、資源・エネルギー等の価格が大きく上昇し、先行き不透明な状況となっております。

当業界におきましては、マスク着用、アルコール消毒、換気の徹底、少人数クラスでの授業、オンライン授業の導入などにより、ほぼ通常に近い経営がなされるようになっております。また、小学校の低学年、高校生の通塾率が上昇してきております。

こうした経営環境のもと、当社グループにおきましては、

- ① 集団型・個別型の各部門において、リアルの授業とオンラインによる授業を融合
- ② 生徒の勉強意欲高揚・継続のためのオンライン自習室の開設
- ③ オンラインによる特別講座の開発・進化
- ④ 保護者との関係性強化のためのオンライン保護者会の開催

により業績向上に努めてまいりました。

その結果として、夏期講習の募集までは順調に推移しておりました。しかしながら、9月の入学において予算に達することができず、当第2四半期の9月生徒数は、小中学部・高校部ともに予算数を若干下回るようになっております。

営業費用におきましては、電気料金の値上げによる水道光熱費の増加があるものの、配布教材の見直しによる教材費の削減、視聴用PCをタブレットに変更したことによるリース料の削減を行いました。以上により、営業費用は全体として減少するところとなりました。

営業外損益におきましては、大きな変動はありません。

特別損益におきましては、9月末現在における低学年生徒数の状況・市場環境の状況等により将来の各校舎の収益性を検討した結果、7校舎の閉鎖を決定いたしました。それに伴い、店舗閉鎖損失引当金繰入額および減損損失を計上しております。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は4,896百万円（前年同四半期は4,945百万円）、営業損失は230百万円（前年同四半期は営業損失281百万円）、経常損失は230百万円（前年同四半期は経常損失284百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は290百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失559百万円）となりました。

なお、季節的変動要因として、当社グループの生徒数は小中学部・高校部ともに夏期講習・冬期講習等の講習に参加した一般生が、それぞれ9月、1月に入学するため、売上高・営業利益ともに第2四半期以降に増加するところとなっております。一方、営業費用につきましては、人件費・賃借料等が毎月固定的に発生いたします。したがって、第1四半期に比べ第2四半期以降の収益性が高くなる傾向にあります。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

#### (小中学部)

小中学部における売上高は、予算を少し下回るようになっております。要因は、集団部門の生徒数・売上高は予算を上回っておりますが、個別部門の生徒数・売上高が予算を下回るようになってきているからであります。一方、オンライン特別講座は順調に売上高を増加させるようになっております。営業費用につきましては、水道光熱費の高騰などにより予算を上回る科目もありましたが、新規採用社員数の減少、適正な教材管理、保守修繕費の削減などにより、全体として予算を下回るようになっております。結果として、小中学部の売上高は4,179百万円（前年同四半期は4,226百万円）、セグメント利益は139百万円（前年同四半期はセグメント利益107百万円）となりました。

#### (高校部)

高校部における売上高は、予算を少し下回るようになっております。要因は、受講単価の高い高3受験学年の生徒数が減少しているからであります。営業費用におきましては、保守修繕費の削減などにより予算を下回るようになっております。結果として、高校部の売上高は680百万円（前年同四半期は682百万円）、セグメント利益は68百万円（前年同四半期はセグメント利益86百万円）となりました。

(その他の教育事業)

FC部門における売上高は、生徒募集、通塾継続が回復途上にあり、予算を下回るようになっております。営業費用におきましては、ほぼ予算通りに推移しております。結果として、その他の教育事業の売上高は35百万円(前年同四半期は36百万円)、セグメント利益は17百万円(前年同四半期はセグメント利益15百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて385百万円減少し、2,094百万円となりました。これは主として、授業料売上等の入金のタイミングのずれにより現預金が減少したためであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて184百万円減少し、8,027百万円となりました。これは主として、有形固定資産・無形固定資産の減価償却が進んだこと、建設協力金の回収が進んだためであります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて570百万円減少し、10,129百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて229百万円減少し、2,702百万円となりました。これは主として、9月末在籍者の翌月分授業料および秋期講習費用の回収が順調であったことにより契約負債が増加したものの、短期借入金の返済および長期への借換により短期借入金が減少したためであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて10百万円減少し、3,140百万円となりました。これは主として、短期借入金からの借換により長期借入金の増加があるものの、私募債およびリース債務の返済が進んだためであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて240百万円減少し、5,842百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて330百万円減少し、4,287百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の43.2%から42.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、前回予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日(2022年11月9日)に公表いたしました「2023年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,861,506	1,515,760
受取手形、売掛金及び契約資産	139,792	156,672
商品	94,603	57,178
貯蔵品	14,574	16,747
その他	374,721	353,584
貸倒引当金	△5,850	△5,631
流動資産合計	2,479,348	2,094,311
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,493,664	2,423,474
土地	3,301,493	3,301,493
その他(純額)	84,441	84,239
有形固定資産合計	5,879,599	5,809,208
無形固定資産		
投資その他の資産	109,719	74,954
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,879,342	1,805,602
退職給付に係る資産	228,203	235,815
その他	118,459	104,836
貸倒引当金	△2,956	△2,914
投資その他の資産合計	2,223,048	2,143,339
固定資産合計	8,212,367	8,027,501
繰延資産		
社債発行費	9,023	8,146
繰延資産合計	9,023	8,146
資産合計	10,700,740	10,129,959
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	545,000	330,000
1年内償還予定の社債	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	377,580	335,996
未払金	581,577	436,671
未払法人税等	111,573	70,231
契約負債	602,275	838,417
賞与引当金	159,107	163,600
店舗閉鎖損失引当金	6,729	33,616
その他	498,260	443,689
流動負債合計	2,932,102	2,702,222

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>固定負債</b>		
社債	250,000	225,000
長期借入金	347,298	405,092
繰延税金負債	78,934	78,415
退職給付に係る負債	884,368	908,509
資産除去債務	600,914	595,381
その他	988,832	927,820
固定負債合計	3,150,348	3,140,219
<b>負債合計</b>	<b>6,082,451</b>	<b>5,842,441</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,089,400	2,089,400
資本剰余金	1,835,655	1,835,655
利益剰余金	674,415	343,766
自己株式	△154	△154
株主資本合計	4,599,316	4,268,666
<b>その他の包括利益累計額</b>		
退職給付に係る調整累計額	18,972	18,851
その他の包括利益累計額合計	18,972	18,851
純資産合計	4,618,289	4,287,518
<b>負債純資産合計</b>	<b>10,700,740</b>	<b>10,129,959</b>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	4,945,754	4,896,599
売上原価	4,502,397	4,443,323
売上総利益	443,357	453,275
販売費及び一般管理費	725,214	684,128
営業損失(△)	△281,856	△230,852
営業外収益		
受取利息	6,163	4,504
受取賃貸料	8,314	8,080
その他	9,746	7,779
営業外収益合計	24,224	20,365
営業外費用		
支払利息	18,969	13,515
その他	7,399	6,130
営業外費用合計	26,369	19,646
経常損失(△)	△284,001	△230,133
特別損失		
店舗閉鎖損失	6,360	-
店舗閉鎖損失引当金繰入額	41,859	27,607
減損損失	198,119	7,122
特別損失合計	246,338	34,729
税金等調整前四半期純損失(△)	△530,340	△264,863
法人税、住民税及び事業税	30,422	25,995
法人税等調整額	△1,231	△467
法人税等合計	29,190	25,528
四半期純損失(△)	△559,531	△290,391
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△559,531	△290,391



四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
四半期純損失(△)	△559,531	△290,391
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△4,724	△121
その他の包括利益合計	△4,724	△121
四半期包括利益	△564,255	△290,512
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△564,255	△290,512
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
集団(黒板を使った集団授業)	2,203,801	650,911	—	2,854,712
i D(映像を使った個別授業)	569,176	—	—	569,176
個別(講師による個別指導)	1,437,707	—	—	1,437,707
その他	16,006	32,033	36,117	84,158
顧客との契約から生じる収益	4,226,691	682,945	36,117	4,945,754
外部顧客への売上高	4,226,691	682,945	36,117	4,945,754
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	11,086	11,086
計	4,226,691	682,945	47,204	4,956,841
セグメント利益	107,278	86,854	15,013	209,146

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	209,146
セグメント間取引消去	12,171
全社費用(注)	△503,174
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△281,856

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産の減損損失として、198,119千円を計上しております。

セグメントごとの減損損失計上額は、当第2四半期連結累計期間においては小中学部198,119千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
集団(黒板を使った集団授業)	2,198,823	650,096	—	2,848,920
iD(映像を使った個別授業)	535,156	—	—	535,156
個別(講師による個別指導)	1,436,469	—	—	1,436,469
その他	9,356	30,876	35,819	76,053
顧客との契約から生じる収益	4,179,806	680,973	35,819	4,896,599
外部顧客への売上高	4,179,806	680,973	35,819	4,896,599
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	10,365	10,365
計	4,179,806	680,973	46,184	4,906,964
セグメント利益	139,737	68,428	17,053	225,219

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	225,219
セグメント間取引消去	12,168
全社費用(注)	△468,240
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△230,852

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産の減損損失として、7,122千円を計上しております。

セグメントごとの減損損失計上額は、当第2四半期連結累計期間においては小中学部7,122千円であります。